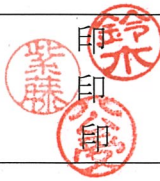


論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

④・乙	氏名	森田 祐介	
学位論文名	Clinical Effectiveness and Adverse Events Associated with Tolvaptan in Patients Above 90 Years of Age With Acute Decompensated Heart Failure		
学位論文審査委員	主査	鈴木 律朗	
	副査	紫藤 治	
	副査	公受 伸之	

論文審査の結果の要旨

トルバプタンは選択的バズプレシンV2受容体拮抗薬であるが、近年心不全に対する利尿薬として注目されつつある。従来、心不全に対する利尿薬はループ利尿薬が多く使用されていたが、ループ利尿薬使用による腎機能障害や電解質異常が予後悪化に関連している可能性が報告されている。また、現在の日本の高齢化において、高齢者の心不全患者が増加し、90歳以上の超高齢者の急性非代償性心不全(ADHF)での入院も増加してきている。申請者は、90歳以上のADHF患者においてトルバプタンを投与することが、90歳未満と比較した場合の有効性と安全性に関して検討した。その結果、90歳以上のADHF患者において従来のループ利尿薬を中心とした治療にトルバプタンを追加すると、48時間までの尿量に関して90歳未満と同様の利尿効果がみられ、心不全の改善を示す体重減少も同様の割合であったことを確認した。また、トルバプタン投与に関連した有害事象を、高Na血症と腎機能障害の発現で検討したが、90歳以上においても90歳未満と比較して有害事象を増加させないことを確認した。本研究は、90歳以上の超高齢ADHF患者においても、90歳未満群と比較してトルバプタンは有害事象を増加させることなく、尿量増加と体重減少という点で有効性を示した。高齢化社会において独自性・新規性を有する学術的に価値のある研究である。

最終試験又は学力の確認の結果の要旨

申請者は学位論文において当院でトルバプタン投与を受けた心不全患者を後方視的に解析し、90歳以上の超高齢者とそれ未満の比較的若年患者において、効果および有害事象に有意差は認められないことを報告した。多変量解析による背景因子補正も適切に行われており、薬剤に対する評価も妥当であった。審査における質疑応答に対しても的確な返答がなされ、関連する知識も十分であることから学位の授与に値すると判断した。
(主査：鈴木律朗)

申請者は高齢者および90歳以上の超高齢者の非代償性心不全の治療としてのトルバプタンの有効性ならびに有害事象の発現を比較検討した。得られた結果は超高齢者での同剤の有用性を示唆しており、臨床的に重要な知見である。公開審査時の質疑応答も適切で関連知識も十分であり、学位授与に値すると判定した。
(副査：紫藤 治)

申請者は、我が国が直面する超高齢者の急性心不全の増加に対し、トルバプタンが有効性・安全性の面から強力な武器になることを本学の臨床データより明らかにした。その思考と研究過程は精緻であり、研究のImpactとlimitationを明確に理解している。研究者として優れた能力を有しており学位授与に値すると判定する。
(副査：公受伸之)